

Y04a 天文学に対する一般市民の意識調査の報告

高梨 直紘（東京大学）、平松 正顕（国立天文台）、川越 至桜（東京大学）、日下部 展彦（アストロバイオロジーセンター）、澤田 幸輝（和歌山大学）、玉澤 春史（京都市立芸術大学）

天文学と社会の望ましい関係を考える上で、一般市民が天文学に対してどのような意識を持っているのかを知ることが重要である。しかし日本では、これまでそのような基礎的な社会調査は十分に行われてこなかった。そこで我々は、一般市民を対象に天文学に対してどのような意識を持っているのかアンケート調査を行ったので、その結果について報告する。この調査はオンラインで行われ、日本の人口動態に合うように割り付けられた2000名からの回答を得た。このデータを整理し、日本人が一般的に持つ関心、学習経験、知識、情報入手手段、所有物、施設訪問経験、天文現象の経験、天文学への関与経験について定量的な評価を行った。また、一部調査項目に関しては天文学の教育普及関係者に対しても同様の調査を行い、一般市民とどのような違いがあるのかを比較検討した。その結果、天文学への関与という観点からは両者の違いは明らかであるものの、連続性があることも示唆された。本講演では、これらの分析結果を踏まえて、今後の調査研究の方向性についても議論したい。